

2022年5月22日（復活節第6主日、C年）牧師メッセージ

「父と子と聖霊によって」

（ヨハネによる福音書 14:23-29）

司祭ヨセフ太田信三

先週の福音は、いわゆる「告別説教」のはじめの箇所でした。今週はその結びの箇所です。先週の福音で、主イエスは「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」という新しい掟を弟子たち授けました。弟子たちは主イエスの昇天後、互いに励まし合いながら新しい掟を守って生きていくことになります。

しかし、弟子たちがいくら励ましあったとしても、人間の力だけでは「愛し合う」ということは困難なことです。それは、わたしたちが生きている現実を見れば、はっきりと分かる事実です。「わたしがあなたがたを愛した」と言われた主イエスの愛ゆえに、わたしたちは「あなたがたも互いに愛し合いなさい」という掟にとどまることができるのですが、どうしても人間は自己愛や、狭い仲間内の愛に惑わされてしまい、主イエスの愛から離れてしまうのです。それゆえ、主イエスはさらなる助けを弟子たちに約束してくださいました。それこそ、弁護者なる聖霊による助けです。「弁護者、すなわち父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」という約束です。主イエスが天に戻られた後は、弟子と主イエスはこの聖霊によって繋がれることになるのです。

主イエスの言葉は勝手に語られた自分の言葉ではなく、「わたしをお遣わしになった父のもの」です。その言葉は、聖霊を通して語られます。なぜなら、「弁護者、すなわち父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」からです。人間だけでは新しい掟を守ることができません。父と子と聖霊なる神の助けがあつてこそ、わたしたちは新しい掟を生きることができます。人間をどこまでも愛される神は、御子をこの世に遣わし、御子が天に戻った後は、聖霊によって人を守り、導かれます。この三位一体の神の働きは、一貫してみ言葉によってなされます。そのみ言葉は今も、わたしたちのそばで聖霊を通して語られています。父と子と聖霊なる神が一つになってわたしたちを愛し、語り続けてくださるから、わたしたちはみ言葉によって守られ、導かれ、心を騒がせず、おびえず、愛し合い、喜んで生きることができます。